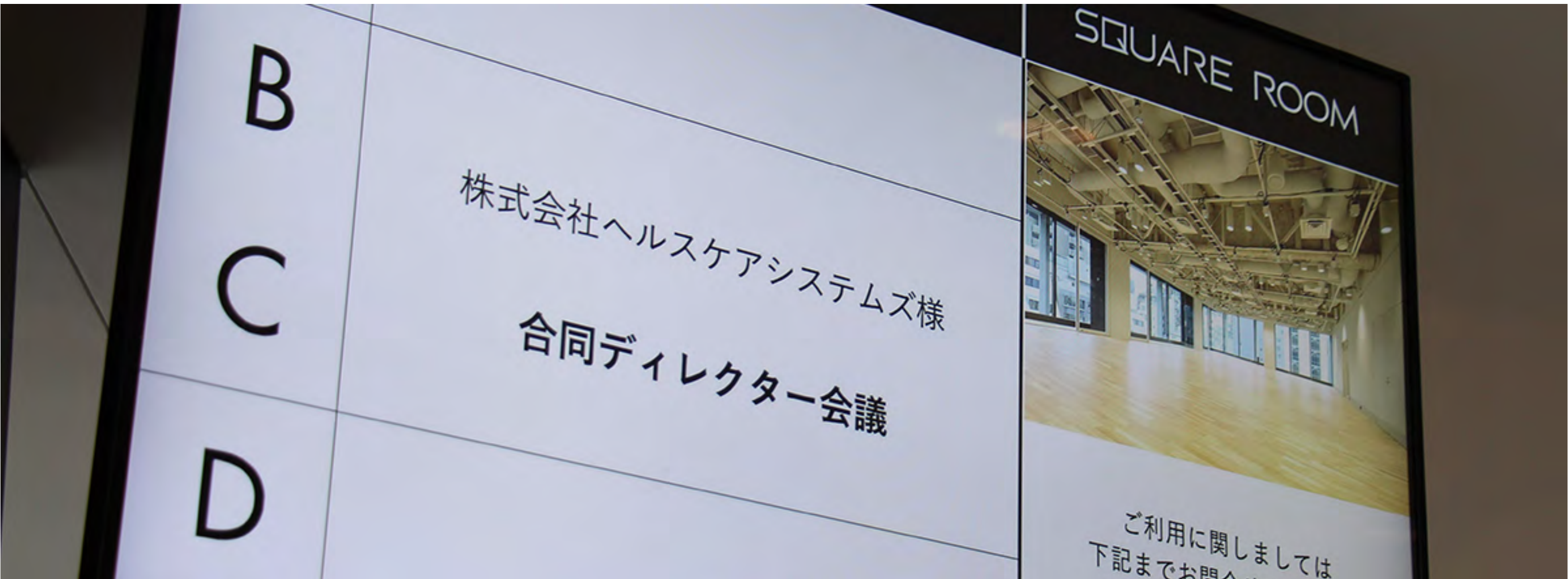


合同ディレクターミーティングを開催しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



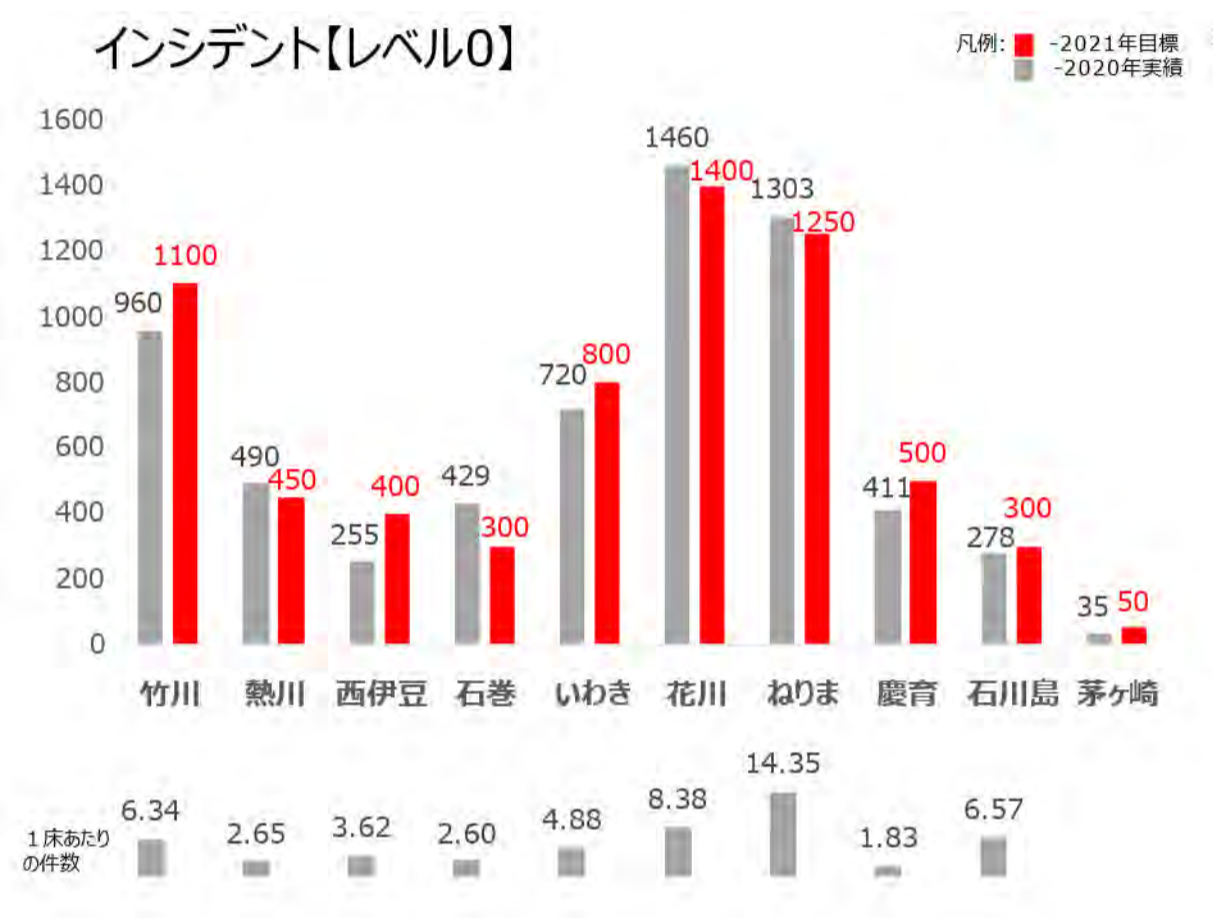
2021年4月23日に合同ディレクターミーティングを開催しました。合同ディレクターミーティングは、半年に一度、全ての病院のメディカルディレクター（院長）とマネージングディレクターが参加して開催します。4月の会議では、予算ヒアリングでの指摘事項を受けて修正された本年度予算計画と医療の質マネジメント計画を共有し、参加者でディスカッションを行いました。



今回の会議で発表された予算計画は、「病院全体の1年後の姿」と「各部門の1年後の姿」の整合性が取れた形に修正され、また、1年後の姿に向けたアクションは、数値目標や期日を入れたより具体的なものとなりました。ほぼすべての病院でやり直しとなったマーケティングは、誰がいつどのようなツールを使って行動するかが文章化されるとともに、各病院の過去の紹介実績や競合情報の分析を行い、より具体的な内容となりました。



医療の質マネジメント計画は、「インシデント」、「クリニカルアウトカム」、「診療にかかわる書類の整備」、「患者満足度」の各項目について、全ての病院の昨年実績と今年度計画をグラフ化した資料をもとに意見交換を行いました。健育会グループでは、急性期や慢性期、病床数や地域性によってそれぞれの病院に特徴があり、一概にデータを横軸で比較することはできませんが、それらを病床当たりの改善数などに換算することで、なるべく同じ視点でデータを比較できるようにしています。自病院だけでなく他の病院のデータも参考にすることで活発な意見交換が行われました。



会の最後には、私から会の総括と、本年度健育会が目指すことをお話しました。

グループの現状ですが、2017年湘南慶育病院とねりま健育会病院の開設による厳しかった財務状況は、2019年にはV字回復。2020年度も予算をクリアする安定した運営となりました。

振り返りますとこの20年間は病院、施設の新設だけでなく、既存の病院の建て替えも行いました。また医療の質を上げ、予算目標を達成するための「プロセス（仕組み）」もできている環境であると認識しています。医療に関しての「ストラクチャー」はハード・ソフト面ともにほぼ整っている状況です。

この状況において今後、健育会グループは一体何を指すのか——まさに我々のミッション「光り輝く民間病院グループ」の実現に向けて“アクセルを踏む時期”です。実現に必要なものはビジョン。各病院理念を達成するためには「クライアントの心を豊かにする」ことが求められます。私が目指す医療は、一律ではなく、患者さん個々の人間としての尊厳、「その人らしさ」を大切にした医療・介護の提供です。職員全員が常に「どうすれば実現できるか」を考えることができるよう、刺激を与えていただきたいと思います。

具体的には、クライアントに提供すべき価値（バリュー）をもう一度確認し、質の高い医療サービスを考える中での「チーム医療」を確立することです。



健育会グループではカンファレンスなどを通じ、すでにチーム医療に力を入れていますが、まだドクターの関与は十分に足りているとはいえません。特にリハビリテーション医学の歴史は浅いため、内科・外科等専門医は大学や現場でリハビリの知識をほとんど教わってきていない。極端な話、ドクターがいなくてもリハビリはできます。それなりの評価は得られるかもしれませんが、患者さんとその家族はドクターからの専門的な見識を待っているのです。「リハビリの専門知識を備えたドクター」の育成に、グループとして積極的に取り組みたいと考えています。

その育成プログラムは学会指導型ではなく、実際の臨床を重視し、各自がカンファレンスで発言できるような形、さらにはカンファレンスをリードできるドクターをグループ内で育てたいと思います。

竹川病院のリハビリ医・山崎先生を中心に、リハビリの知識も総合医としての資質も習得できる研修プログラムを作り始めました。入社初期にリハビリの勉強をすることによって、半年後には典型症例を理解し、リハビリチームをリードできる医師になってもらうものです。

本当の意味での「ゼネラル」を診る医師。リハビリに加えてそれぞれの専門知識を持つ幅広いドクターを育てるシステムは、高齢化が進む現代、必ず評価されるでしょう。

スタッフから信頼され、さらに患者さんや家族から「しっかりとドクターが説明してくれる」と評価される「光り輝く民間病院」として、健育会はアクセルを踏み続けていきます。職員のみなさんにも「心豊かな医療を提供する」心構えを持ち続けるよう、ディレクターから常に情報を発信してほしいと思います。